
東京大学果樹園跡地の活用方法の検討

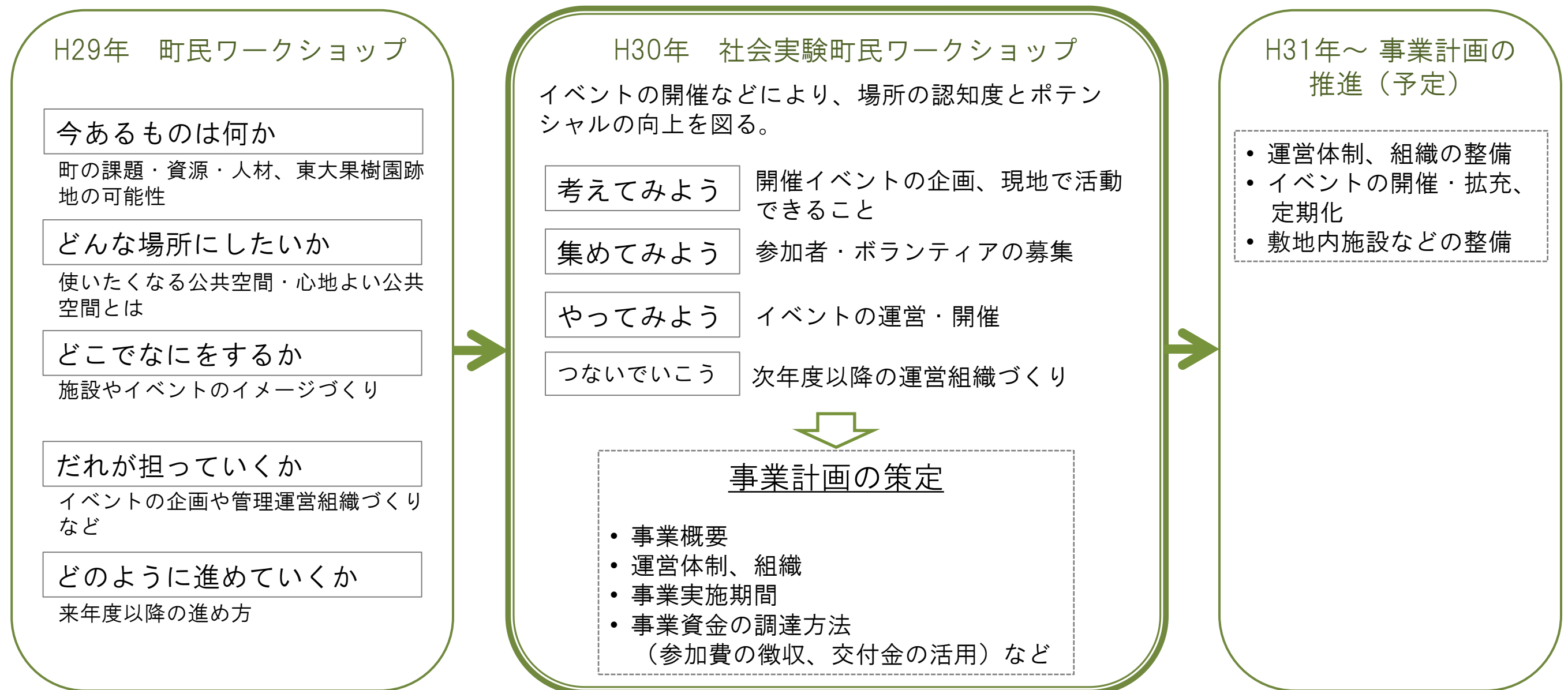
第1回 検討会
2018年6月30日

1 .昨年度の振り返りと今年度の目標の共有

▷事業の方針

- 第5次二宮町総合計画において「**新交流ゾーン**」に位置付けられている。
- 「**子どもと共に大人も楽しみ学べる場**」として、多世代交流・多目的利用を目的に展開し、活動を拡大していく。

▷事業の流れ



▷今年度の目標

- 二宮町の財産である東京大学果樹園跡地を有効活用するための**仕組みづくり**を！
- 継続的に活用するための活用の担い手を発掘し、**管理運営組織を構築**します！
- 今後の事業推進の基となる**事業計画**を決めましょう！

▷活動スケジュール

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
継続的におこなう活動	→									
管理運営組織の検討	●		●		●			●		●
イベントの開催				●		●	●			

※暫定スケジュールのため、活動内容によって変更となる場合があります

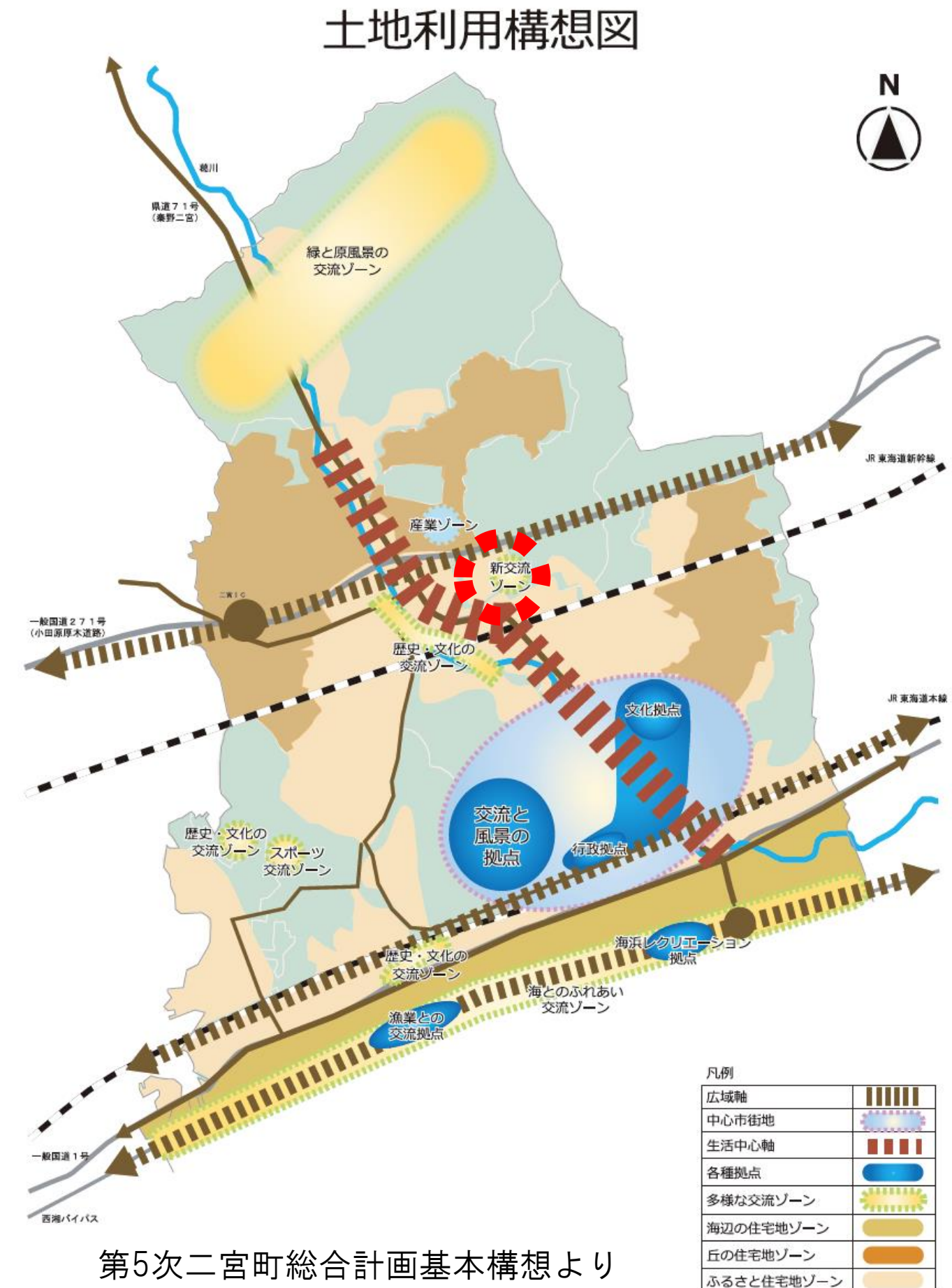
▷活動内容

- 東京大学果樹園跡地をより良くするための年間を通じた**継続的な活動**
(誰もが使いやすい場とするための準備、イベント準備など)
- **管理運営組織の検討**
(継続的活動、イベント開催を踏まえての組織のあり方)
- **イベントの開催**
(場所の認知度とポテンシャルの向上)

2.敷地現況の確認

▷ 二宮町のなかでの位置づけ

- 町の中央に位置し、二宮駅から車で5～10分に位置する。
- 町を南北に縦断する県道71号線から一本住宅街に入った場所に位置する。



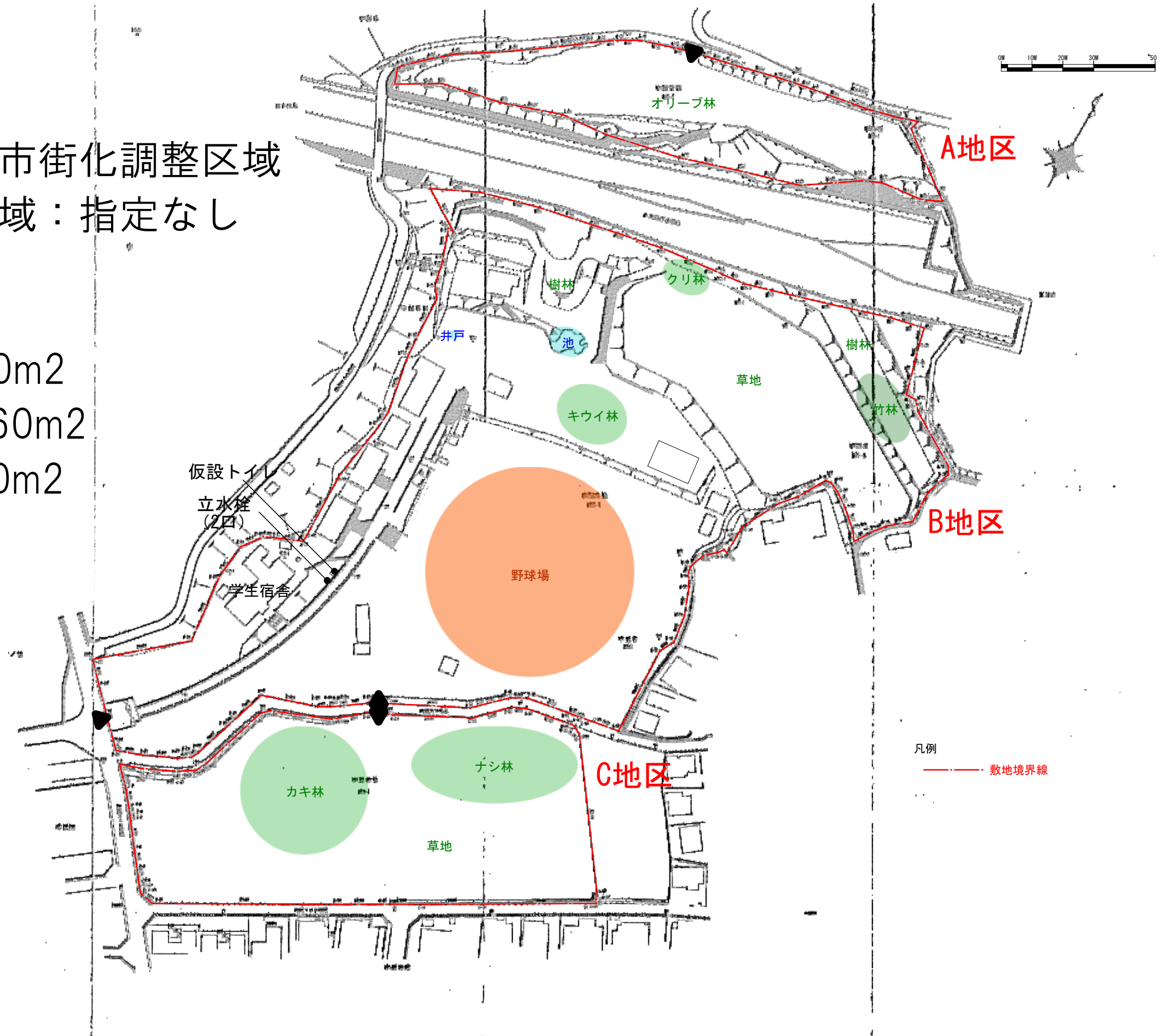
▷敷地条件

法的制限

- 都市計画区域：市街化調整区域
- 防火・準防火地域：指定なし

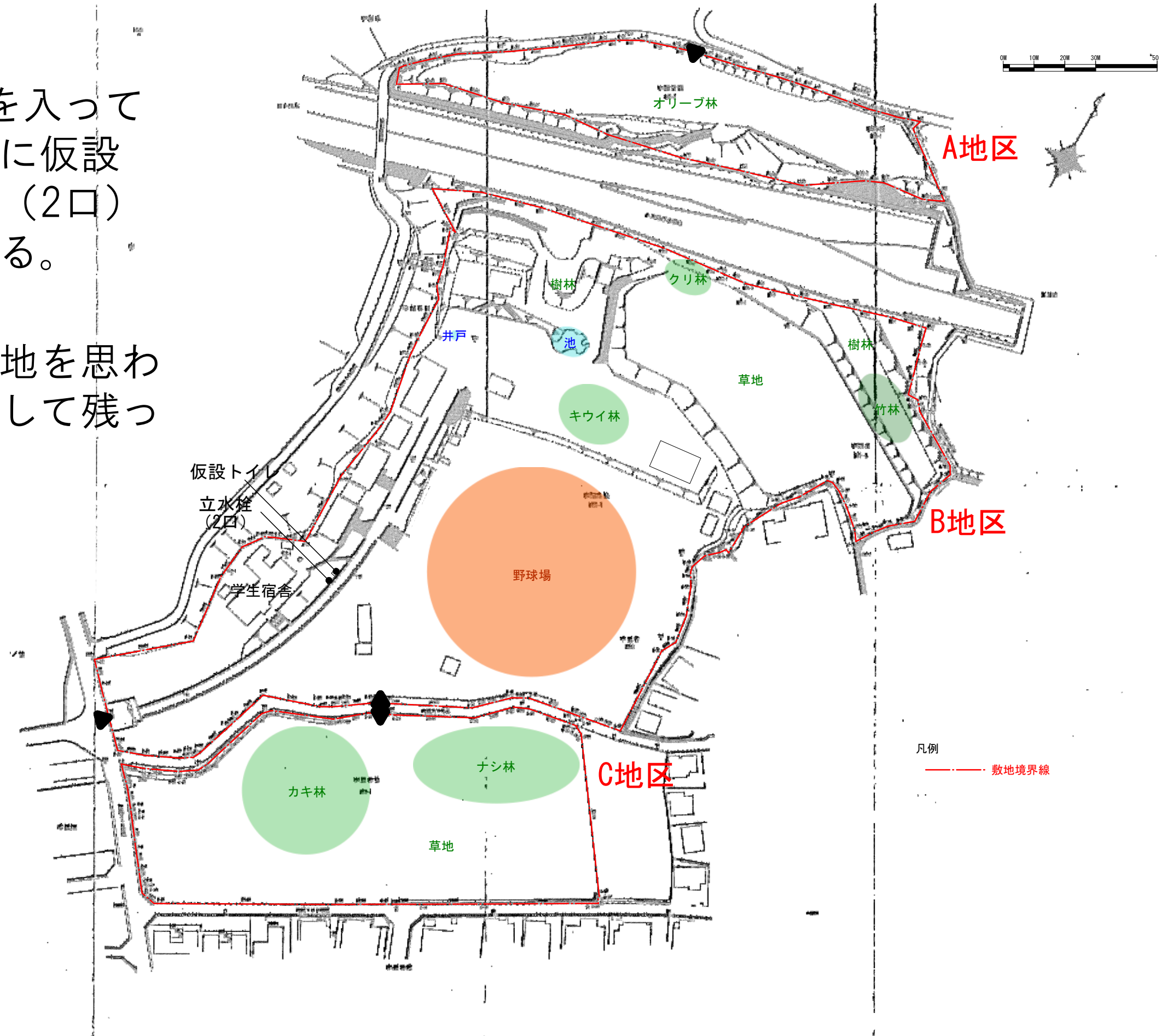
面積

- A地区：約4,300m²
- B地区：約24,860m²
- C地区：約8,460m²



▷敷地条件

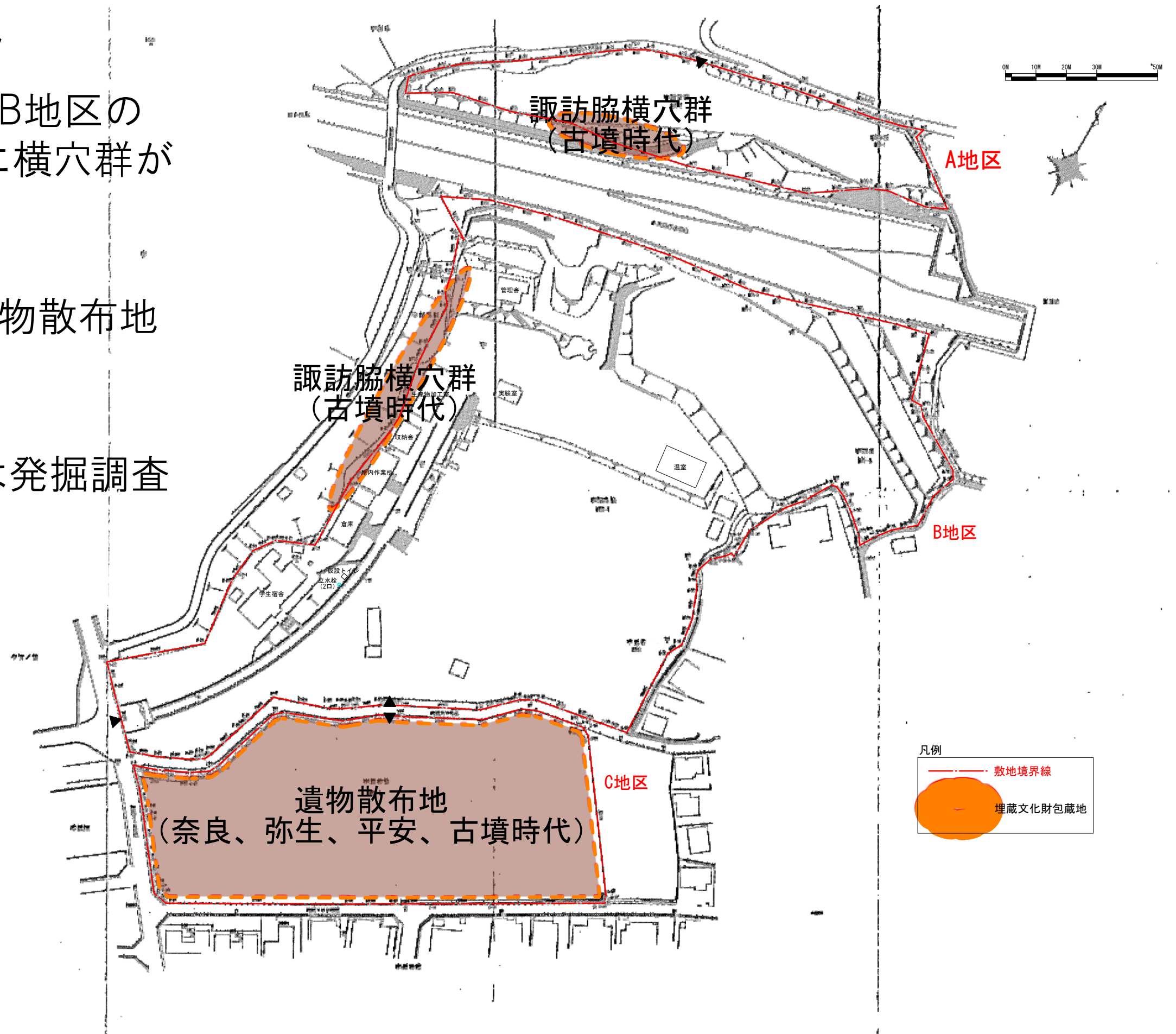
- B地区西側入口を入って学生宿舎跡近くに仮設トイレと立水栓（2口）が設置されている。
- 各所に果樹園跡地を思わせる果樹が点在して残っている。



▷埋蔵文化財包蔵地

- A地区の南側、B地区の西側の崖沿いに横穴群がある。
- C地区全体が遺物散布地となっている。

→開発を行う場合は発掘調査が必要となる。
(地面の掘削もこれに当たる。)



▷現況写真（A地区）



▷現況写真 (B地区-1)



▷現況写真 (B地区-2)



▷現況写真（C地区）

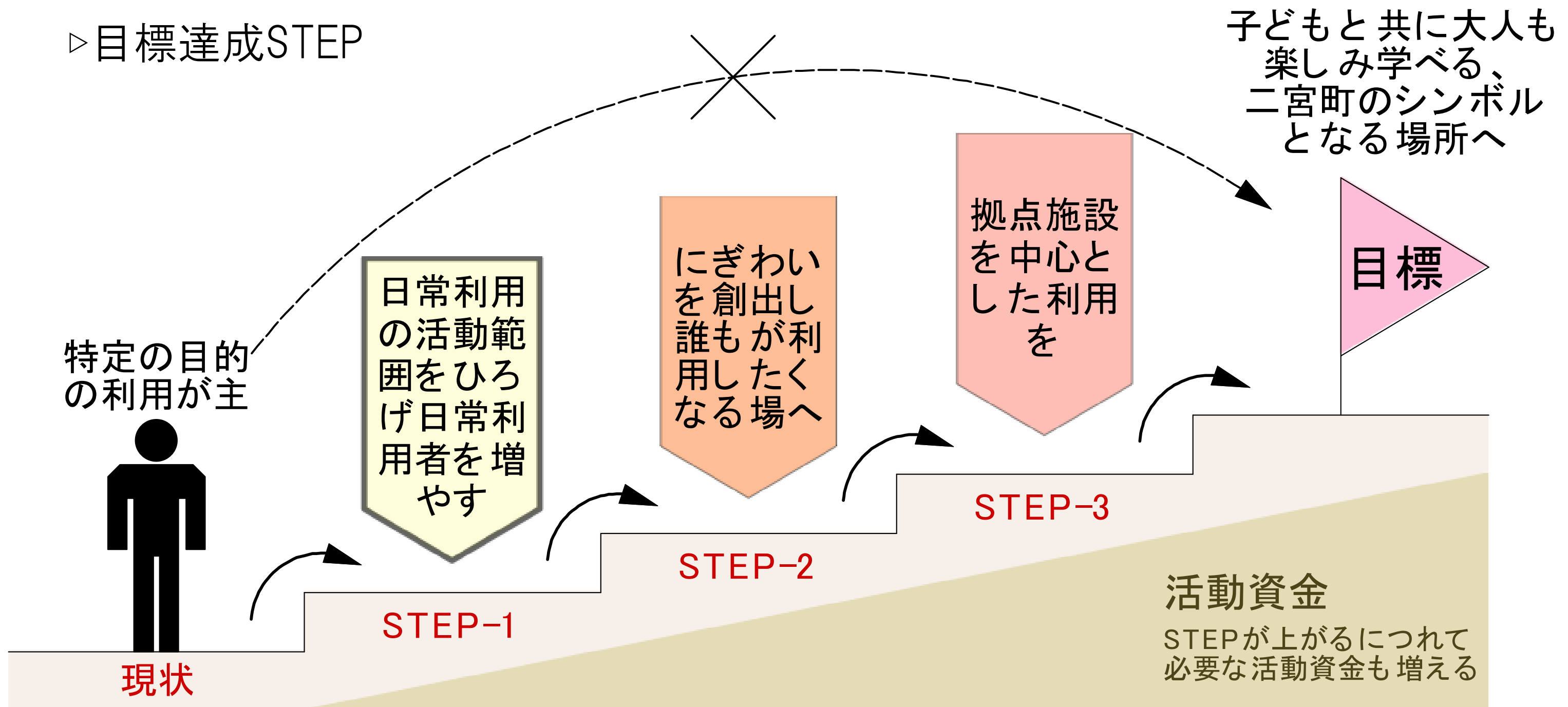


3. ディスカッション

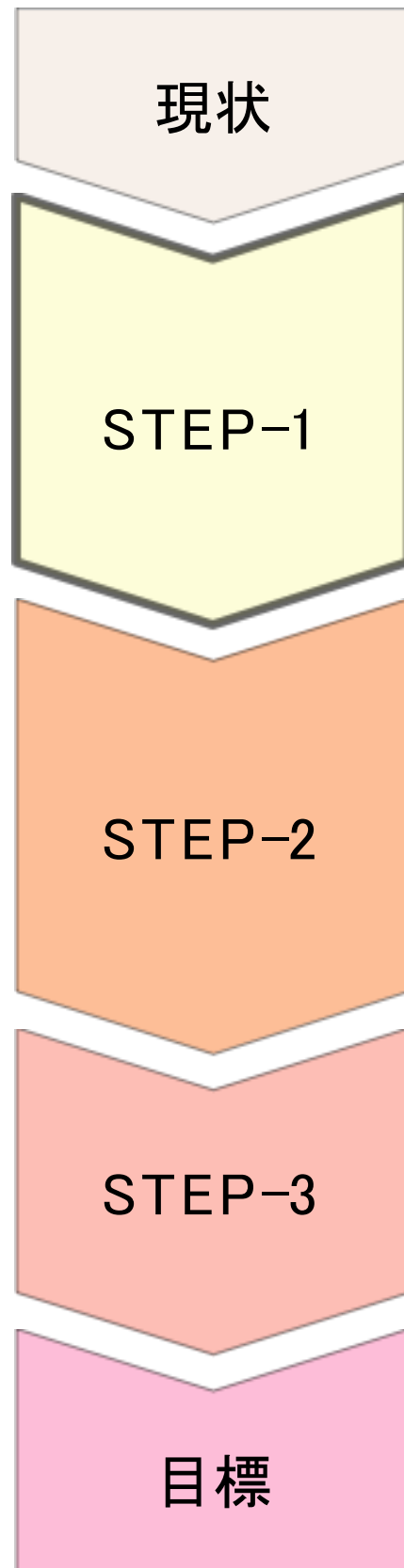
▶前提条件

1. 町民を中心とした管理運営団体による維持管理を行う。
2. 敷地内での収益で管理費用をまかなう仕組みをつくり、自活を目指す。
3. 東京大学果樹園跡地の認知度を高め、ポテンシャルを向上させることで魅力的な場所へ。

▶目標達成STEP



昨年度WS活用（案）を目標と考えた場合のプログラム



現状
 グラウンド：主に休日の利用（＊）
 自然体験学習：月1程度の利用（＊）

■日常利用の活動範囲を広げる

STEP-1
 ドッグラン：日常利用（＊）
 駐 車 場：日常利用

→既存鋼管、ワイヤー等の撤去が必要
 →既存鋼管、ワイヤー等の撤去が必要

■にぎわいの創出

STEP-2
 飲食出張販売：日常利用（＊）
 BBQスペース：主に休日（＊）
 デイキャンプ：主に休日
 トイレ・水道：日常利用

→トイレ等のインフラ整備が必要

■拠点施設を中心とした利用

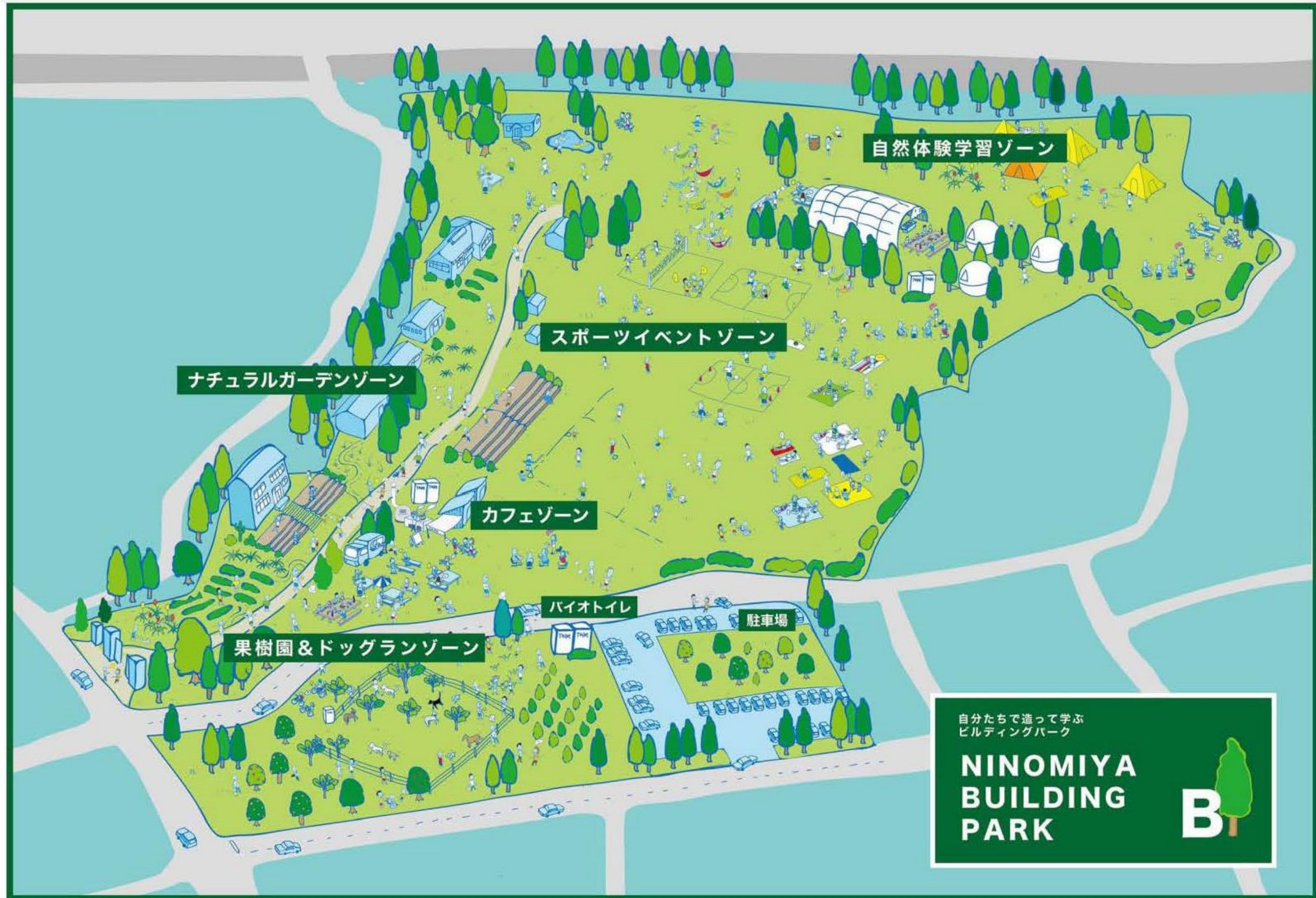
STEP-3
 学生宿舎等：日常利用（＊）

→現況建物の全面改修、又は建設が必要

目標
 「子どもと共に大人も楽しみ学べる場」として、
 二宮町のシンボリックな拠点となり、様々な人の交流の場とする

（＊）…将来的に収益性が見込まれるもの

東京大学果樹園跡地の活用イメージ 町民ワークショップ案※



※第5回町民ワークショップの意見などを反映したイメージ